Vol.10 ベアリンクニュースレター 2018 年 11 月発行

News Letter つなぐ

～人を育てる風土を作り、元気で強い会社に！～

小春日和が続いた今年の秋も、いよいよ深まってきました。
先日、仕事で訪れた徳島県阿南市で、休耕田にコスモスがたくさん咲いていて、ホッと心を和ませてくれました。

さて、今回「つなぐ vol.10」は、これが無ければ部下と信頼関係は築けない！部下を育てる上司が持っておきたい必須のスタンスについてお伝えします。よろしければお付き合いください。

部下を育成する上司の必須のスタンス

上司は、組織のリーダーとして部下を動かし、成果を出す役割を担われています。特に最近は、年齢、性別、雇用形態、価値観など多様な部下をまとめていくスキルが求められています。その部下をまとめていく際に必要なのが、信頼関係です。

どのような部下とも、しっかりと信頼関係を築くために、上司が持っておきたい育てる側のスタンス、それが、**『「人はいつも最善を尽くしている」という前提で人と関わる』** です。

このスタンスで部下と接する事で、
「この上司になら安心して相談できる」
「この上司だったら、たとえ厳しいことでも聞ける」
部下がそう思えるような信頼関係が築きやすくなり、信頼関係が築けると上司は仕事がしやすくなります。

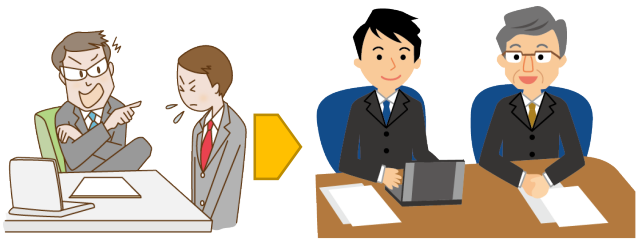
なぜなら、相手（部下）とコミュニケーションを取る時、相手が自分を否定していると感じると、心のシャッターを下ろしてしまいます。たとえ、言葉で直接否定をしなくても、それは相手に伝わります。部下の心のシャッターが下りていては、信頼関係は築けませんし、上司の指導の言葉もなかなか耳には入っては来ないのではないでしょうか。

このスタンスは、10 年以上人材育成として実績のある自立型支援方法（相手の自立を促す 14 の習慣）の第 1 番目、グラウンドルールとして位置づけられています。コミュニケーションのスキルである傾聴、質問、褒める叱るなどのスキル以前のスタンスとも言えます。

『「人はいつも最善を尽くしている」という前提で人と関わる』

これは「相手がいつも正しい」と肯定することではありません。
相手の行動によってうまくいかない状況になった時、
「理解できない」
「これだから〇〇は・・・」
と思っていたのを、
「この人なりのやり方なのだろう」
「何か理由があったに違いない」
とまずは受け入れるということなのです。

「どうやったら部下がもっと頑張ってくれるのか」
「どう言えば部下が分かってくれるのか」
上司は組織の成果をあげるために、いつも心を砕かれている事でしょう。その努力がより有効となる第一歩として、心の位置を、対立する位置から、相手の隣、一緒に未来を見ることができる位置に変えて関わるということから始めましょう。



～自立の定義と自立を促す 14 の習慣～

目指す人と組織の姿として、大切としている「自立」の定義と、それを促す関わり方を記します。
（メンターマネジメント協会ホームページより抜粋）

●「自立」とは

自らの人生や仕事において、「自分が選択している」という意識があり、その選択に責任を持っていること

●「自立した人」とは

・一人ひとりが自分で考え、壁を乗り切る力を身につけていること。
・何か問題が生じたとき、他人への責任転嫁（他責）ではなく、つねに当事者意識を持ってあたれること

●「自立（成熟）した組織」とは

・組織自体に問題解決をする能力があり、協働の雰囲気を大切にし、必要な時に改善に向けて話し合う力があること
・一人ひとりの力が十分に発揮されていること

自立を促す 14 の習慣　（自立した人と組織を育てる関わり方）

1. 「人はいつも最善を選択している」という前提で人と関り続ける。
2. 自分の思い込みを一旦はずし、そのままの相手をしっかり受け止める。
3. 相手が尊重されていると思う聴き方をする。
4. 相手の中の答えを、効果的な質問で引き出す。
5. 評価的な表現でない言葉で相手を承認、認知する。
6. コミュニケーションの意図について、いつも意識を向ける。
7. 自分の成功体験、情報を押し付けにならないように提案する。
8. 「他人の能力、可能性は決められない」ことを知っている。
9. 過去と他人は変えられない、人はみな違う（人は見たいようにみるし聞きたいように聞く）ことを知っている。
10. 人間関係を破壊する７つの習慣を使わないように意識する。
①批判する　②責める　③がみがみ言う　④文句、苦情を言う
⑤罰する　⑥脅す　⑦コントロールするために褒美でつる
11. 信頼関係を構築するために、いつも安心感のある安全な場を作り出す。
12. 相手を常に勇気付け、責任を取る権利を奪わない。
13. 失敗したと感じることも、常に学びの種に変える。
14. いつもどのような時も、自分が世の中に必要な存在であることを知っている。

～TOPIC～

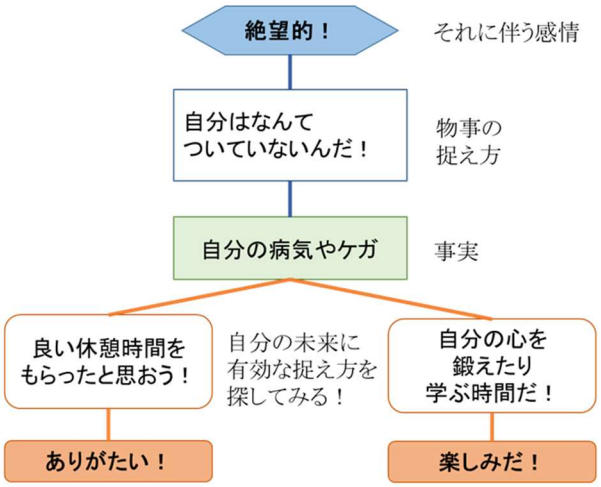
先日、神戸市協賛にて、「働く女性のためのしなやか術レジリエンスアップセミナー」に登壇いたしました。

「レジリエンス」とは、「復元力」「精神的回復力」とも言われる心理学用語です。仕事をしていると、ミスをする、上司から叱責される、取引先の方から理不尽な要求がある、など様々な困難や逆境だと感じることがあります。私たちが困難や逆境だと感じることのほとんどが、変えられない過去や他人との関りによって生じます。

今回のセミナーでは、困難だと感じる出来事を、未来に有効に活かし、しなやかに強く乗り越えるためのパラダイムシフト（思考・捉え方を変える）のトレーニングをさせていただきました。

経営者、人事の方とお話しをすると、特に最近は、打たれ弱い、粘りが弱く、心が折れる人や離職する人が増えているというお声を伺います。
このレジリエンスは、若手はもちろん、様々な年代、役割の方に必要となる要素ではないでしょうか。

◆負の出来事を前向きに転換するパラダイムシフトの考え方
2018年8月20日神戸新聞の紹介記事より抜粋



こんな気持ちで乗り越えたい

ベアリンクニュースレター「つなぐ　Vol.10」をお読みくださり、ありがとうございました！
今回、配信が遅れましたことをお詫び申し上げます。

発行：ベアリンク　土元紀子
〒530-0001　大阪市北区梅田 1 丁目 11 番 4 号　大阪駅前第 4 ビル 9 階　923-1001 号
TEL：06-4400-5189　FAX：06-6345-7931　Mail：info@bearlink.jp　URL: https://bearlink.jp